

3

農業農村整備部の事業概要

かんがい排水事業

用排水機場や幹線用排水路など、水源から水を引き、また排水するための農業水利施設を整備することで水利用の安定と合理化を図ります。

これらの施設の整備や老朽化などに対応することで、干害や湛水被害などの防止や用排水の改良による作物増収のほか、作物生産費や老朽化施設の維持管理費の節減に寄与します。



五十五人揚水機場
(石巻市、中津山地区)

ほ場整備事業

既存の農地を大区画化し、併せて用排水路の整備や農道の拡張など農地の改良に必要な全ての工事を総合的に行うことで、よりよい基盤条件を持つ農地に整備します。ほ場整備事業により、大型機械の導入による労働生産性の向上や水田の畑利用による土地生産性の向上を図り、担い手への農地利用集積を促進します。

このうち、農業競争力強化農地整備事業は、農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化に取り組む地区、農業の高付加価値化に取り組む地区などを対象として農地の整備などを実施します。



区画整理前のほ場
(東松島市、西小松地区)



大区画化したほ場
(東松島市、西小松地区)

農地防災事業

農業水利施設の計画的な整備・補強を行い、自然災害による被害の防止や計画的な機能回復を図ります。これにより、農業生産の維持や農業経営の安定だけでなく、国土や地域住民生活の保全も実現します。



宮沢堀排水路
(石巻市、石巻中部地区)

災害復旧事業

平成23年3月11日に発生した東日本大震災からの復旧・復興を進めるため、早期の営農再開を最優先として農地復旧、用排水機場などの災害復旧を実施しました。また、沿岸部の甚大な被害を受けた農地海岸についても計画的に災害復旧を推進しました。

そして、令和4年3月16日発生 of 福島県沖地震では農業用施設の破損、令和4年7月13日から16日発生豪雨では、揚水機のポンプの冠水や法面の崩壊などの被害が生じており、災害復旧を進めています。



福島県沖地震によって被災した水路
(石巻市、大川地区：R4.03 撮影)

施設整備事業、施設管理事業等（団体営事業）

施設整備事業

施設の劣化状況調査に基づき、機能を保全するために必要な対応方策を定めた計画を作成し、これに基づく施設の更新や予防的な保全対策、又は事後的な保全対策を組み合わせ実施します。これにより施設の長寿命化や維持管理費の低減等を図っていきます。

施設管理事業

国営土地改良事業や県営土地改良事業で造成された基幹的な農業水利施設について、適正な維持管理を行います。



後谷地排水機場
(石巻市、基幹水利施設管理事業)

農業用ため池の防災減災への取組



ため池監視システム（写真右）設置の様子
(牛網堤ため池、東松島市)

東部管内には、石巻市57カ所、東松島市177カ所の計234カ所の農業用ため池があります。

ため池やその周辺では、水難事故が発生する可能性があり、適切な安全管理が求められています。このような中、緊急自然災害防止対策事業債や農村地域防災減災事業等を活用し、立ち入り防止柵や救助ネット等の安全施設の設置を進めています。

また、管内の21カ所（石巻市18カ所、東松島市3カ所）のため池は、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設が存在し、人的被害が想定される「防災重点農業用ため池」に指定されており、石巻市の大吉野ため池では、令和5年度より農業水路等長寿命化・防災減災事業のため池防災環境整備を実施します。



多面的機能支払交付金事業

農業・農村は、農作物の生産のほか、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成等の様々なはたらきを有しています。これらの様々なはたらきを「農業・農村の有する多面的機能」と呼びます。当事業では、この「農業・農村の有する多面的機能」を維持・発揮するための地域の共同活動にかかる支援を行い地域資源の適切な保安全管理を推進することにより、「農業・農村の有する多面的機能」が今後も適切に維持・発揮されるようにするとともに担い手農家への農地集積をサポートします。



当事業による普及・啓発活動
(北上地区保全会)



当事業による草刈り活動
(奥松島地域資源保全会)

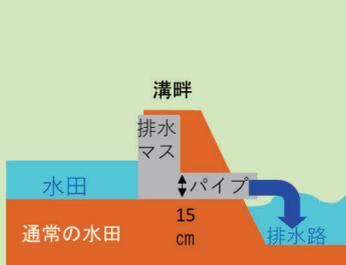
「田んぼダム」への取組

近年、豪雨や台風などの発生が増加し、流域全体で水害を緩和する「流域治水」の推進が重要になっています。農業農村整備の分野では、近年特に「田んぼダム」への取組に注目が集まっています。「田んぼダム」は水田の落水口に調整板を設置する等して、大雨の際に水田内に一時的に雨水を貯留しつつ、ゆっくりと排水をすることで、水路や河川の水位の上昇を緩やかにする取組です。実施地域やその下流域の湛水被害のリスクを軽減することを目的とし、作物の生産に影響を与えない範囲で行います。

本県では、令和3年度に「宮城県田んぼダム実証コンソーシアム」が設立され、本取組の実施地域が拡大しており、本圏域でも研修の実施や新規地区における取組の検討を行っています。

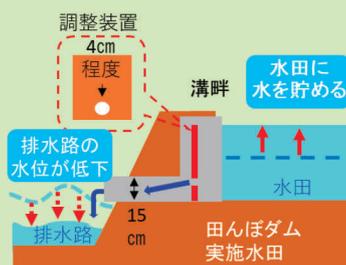
また、多面的機能支払交付金事業では、令和3年度より「田んぼダム」に取り組む場合の加算措置（単価400円/10a、資源向上（共同）を5年間以上実施もしくは資源向上（長寿命化）に取り組む場合は単価に0.75を乗じた額（300円/10a））が設けられました。

通常の水田



水田の排水がそのまま排水路へ流れ、排水路の水位が上昇します。

田んぼダム実施水田



パイプよりも小さな穴の開いた板等の調整装置を取り付け、ゆっくりと排水を流すことで、排水路の急激な水位の上昇を防ぎます。

ロート型堰板(調整板)



宮城県古川農業試験場と東北興商(株)共同開発

ツースリット型落水工樹



後面にφ50mm程度開口の調整板を設置することで田んぼダムへの取組が可能